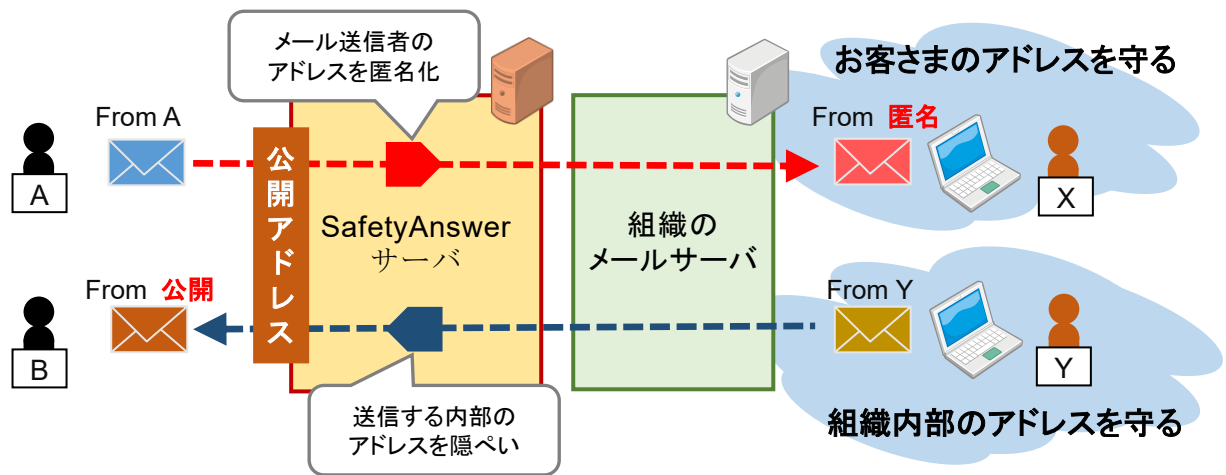


SafetyAnswer

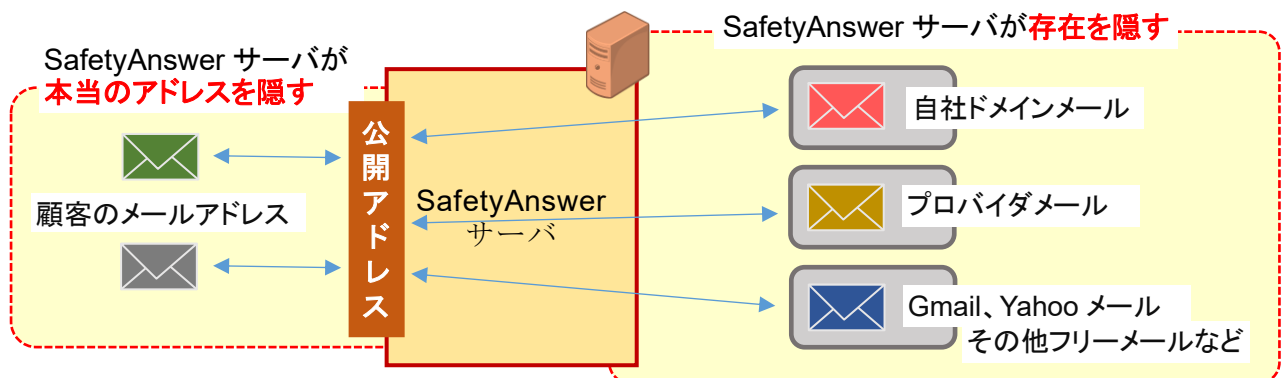
1. メールアドレスを守るメールサーバ

SafetyAnswer はメールアドレスを秘匿化する独自技術を用いて、メール送信者のメールアドレスを匿名化することと、実際にメールを受信する利用者のメールアドレスを隠ぺいすることで、様々なセキュリティ攻撃の対象となるメールアドレスの漏えいを防ぐことができます。



専用のメールサーバを利用せずに、プロバイダーの提供するメールアドレスやフリーのメールサービスのメールアドレスを内部のアドレスとして使って運用することができます。

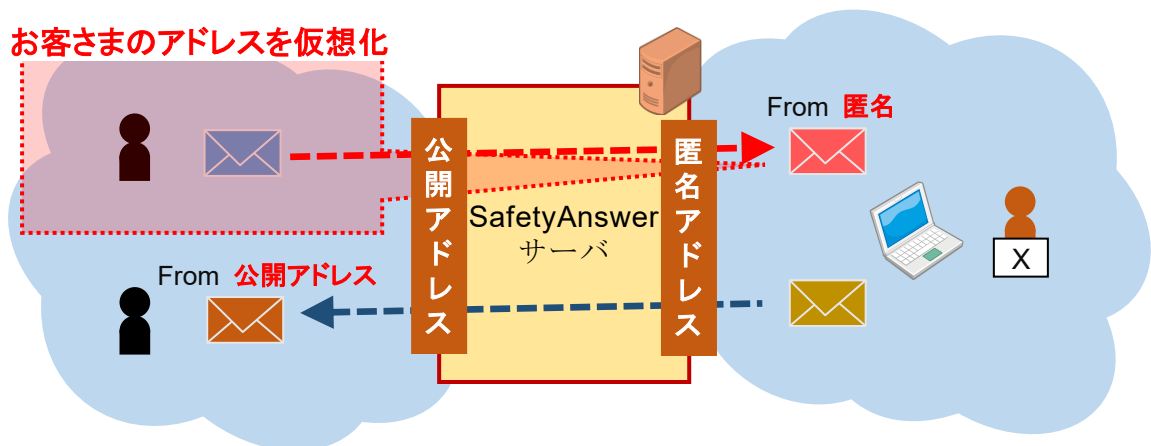
取得したドメイン宛のメールを **SafetyAnswer** サーバが処理することにより、ドメイン宛のメールが各利用者の利用するメールサービスへ送り届けられます。各利用者が発信するメールは、**SafetyAnswer** が正しいメールの宛先を判断して公開アドレスからメールが送信されるため、各利用者が使っているメールサービスのメールアドレスが漏れることはありません。



2. メールアドレスを仮想化する

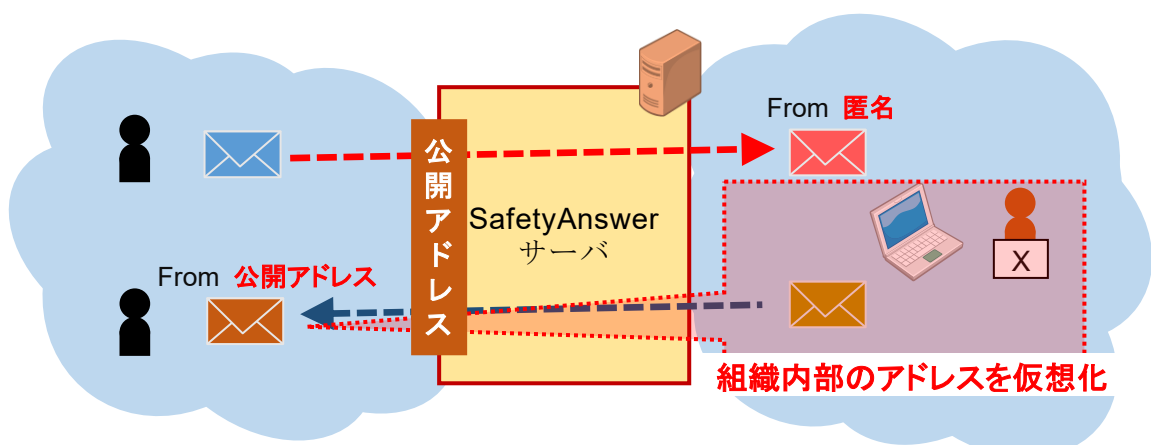
SafetyAnswer サーバは、受信・送信するメールの送信者アドレスを秘匿する技術を使って、お客様のメールアドレスや組織内部のメールアドレスを実際のメールアドレスとは別の値で流通させる、メールサービスの仮想環境を創り出します。

ファントム機能



送信してくるお客様のメールアドレスは匿名化されることにより、組織の内部に溜まるお客様のメールアドレスを仮想化します。

ステルス機能



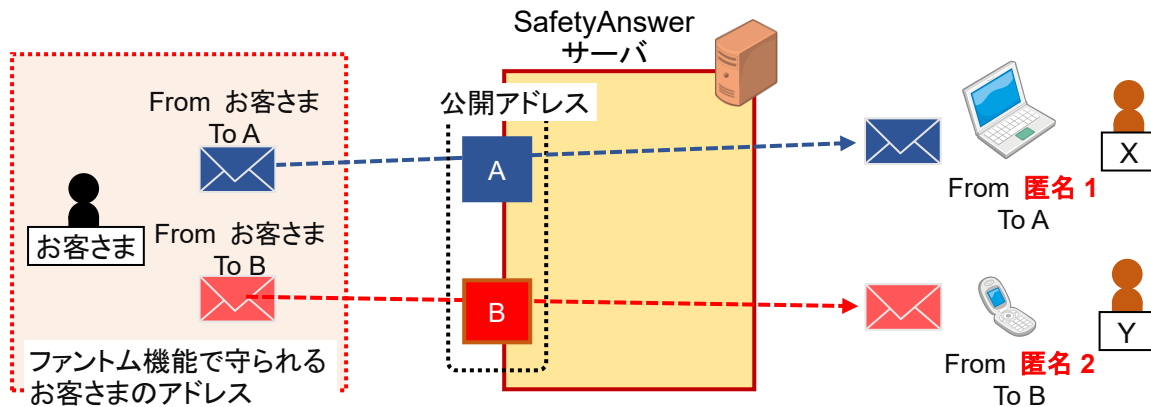
組織の内部で実際にメールを受信しているアドレスは隠ぺいされることにより、メールを送信（返信）する利用者の本当のアドレスを仮想化します。



① ファントム機能 (Phantom Function)

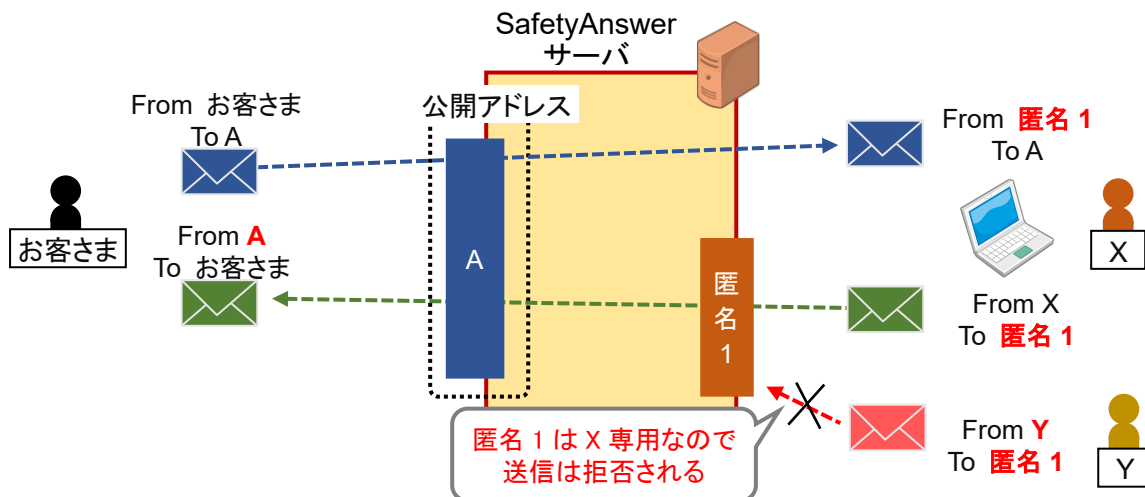
外部から届くメールのアドレスは収集しない
 お客様の本当のメールアドレスは知らないで漏れない

SafetyAnswer サーバが管理する公開アドレスで受信したお客様からのメールは、メールの送信者アドレスを匿名化して転送できます。組織の内部で受信する **SafetyAnswer** の利用者には、メールの送信者アドレスが匿名化されて届きます。



さらに、同じお客様からのメールでも受け取る公開アドレスが違えば、別のアドレスに匿名化されます。

メールを受け取った **SafetyAnswer** の利用者は、匿名のアドレス宛に自分のメールアドレスからメールを送ることで、**SafetyAnswer** サーバがお客様の本当のメールアドレスに宛先を戻して、正確にメールを届けます。



このとき、匿名となったお客様のメールを受信したアドレスでない別のアドレスからお客様宛にメールを送信することはできません。これは、社内であっても、他人に成りすまして不正にメール送信ができないということです。

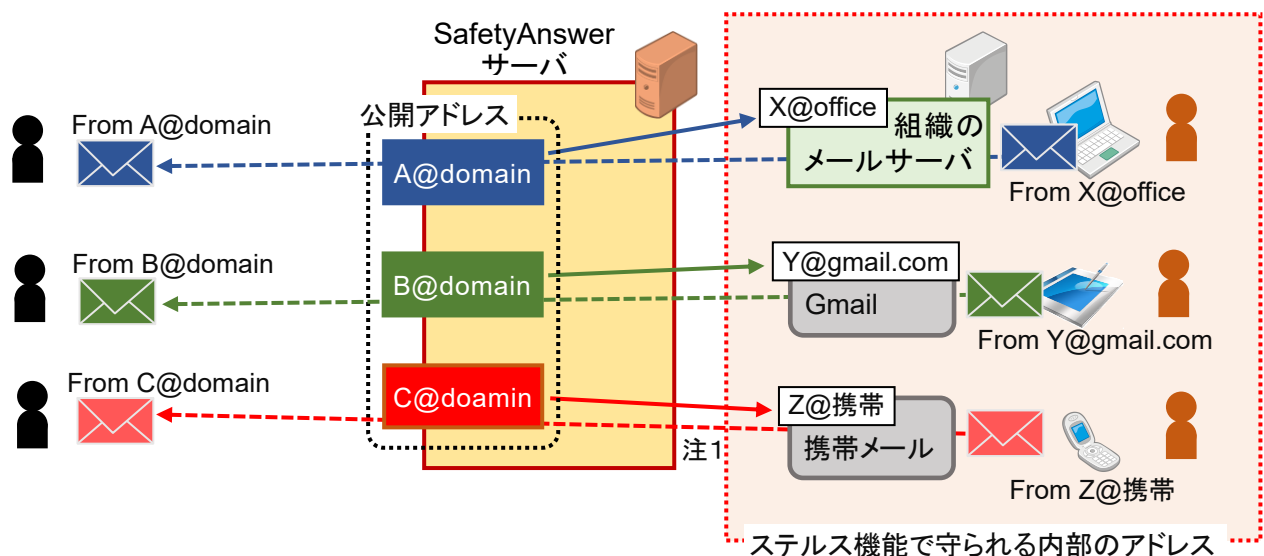
ファントム機能で受信したメールの送り主は、メールを受取った本人にしか見えない、まるで亡霊の如き存在となります。

② ステルス機能 (Stealth Function)

社内で使っているメールのアドレスは外部に知られない
 標的型メール攻撃の対象を外部に漏らさない

SafetyAnswer サーバは、公開アドレスへ届くメールを転送先に設定したメールアドレス宛に転送します。外部からメールを送ってくる送信者には、公開アドレスの先にいる本当のメール受信者のアドレスは知らされません。

そして、公開アドレスの後ろに隠れているメールアドレスを利用している利用者は、**SafetyAnswer** サーバを経由してメールを送信することにより、公開アドレスが送信者アドレスとなってメールが発信され、本当のメール送信者のアドレスはメールを受け取った受信者には知られません。



SafetyAnswer を利用することで、組織の内部で実際にメールを受信・送信しているメールアドレスを隠ぺいすることができます。

組織の内部で利用するメールアドレスは、プロバイダーが提供するメールアドレス、独自ドメインで運用するメールアドレス、携帯のキャリアメール、Gmail や Yahoo メールなどのフリーメールでも利用できます。

注1) メールを送信時のサーバを **SafetyAnswer** サーバに変更できない場合は、受信メールに対する「返信操作」でメールを送る必要があります。一般的に携帯メールがこれに該当します。全てのケースで **SafetyAnswer** サーバを介して受信したメールへの返信操作は、実際にメールを返信したアドレスではなく、**公開アドレス**を送信元アドレスとした返信メールになります。

ステルス機能により、組織の内部でメールを受信・送信している利用者の存在は、組織の外部にいるメールの利用者からは隠された存在となります。

